

子供の体験活動推進に関する実務者会議（第2回）主なご意見

（メールでのご意見）

ポータルサイトについて○ポータルサイトの運営主体の役割

- ・学校・保護者の安心を考えると、管理運営者の名称等がポータルサイトで明示されていることが必要である。
- ・リアル体験の推進にあたっては、ポータルサイトの運営を軸に、体験活動の普及と質的向上に取り組むことになると思われるため、運営を担う団体には以下のような役割が考えられる。

①サイトの管理・運営

- ・コンテンツの更新・充実
- ・システムの改修（利便性・機能性の向上）
- ・登録者の管理等

②登録者への講習等の実施

- ・利用にあたってのオンデマンド講習（趣旨や利用方法等の説明）
- ・企業等の提供する体験活動の体験会（教職員向け）
- ・学校・地域と企業等が連携して行っている体験活動の視察会（企業等向け）
- ・体験活動の企画・運営に関する講習（教職員・企業等向け）

③体験活動の実施に関する相談窓口

- ・企業等が提供する体験活動の利用に関する相談
- ・企業等が行う体験活動の企画・運営に関する相談
- ・体験活動のマッチングに関する相談

④登録者からの情報収集

- ・学校・地域のニーズ（企業等向け）

○検索項目

- ・県外からの申し込みを可能とすれば、修学旅行等との抱き合わせで、旅行業者が検索をかける可能性もある。
- ・検索項目には、例えば、自然や自活については就学前～小学校低学年、本物の職業の現場について小学校高学年～中学校、研究室等であれば小学校高学年～高校という区分を設けることで、学校での取り組みとしてリアルな体験の機会を受け入れやすくなるのではないか。
- ・また、検索項目には以下も必要と考える。

①対象

- ・学校関係者の方（学級、学年、クラブ活動）
- ・保護者の方 個人（学校を介さない形？）

②体験活動の種類

- ・宿泊を伴うもの（一泊二日、それ以上）
- ・宿泊を伴わないもの

③活動内容

○情報の掲出時期

- ・学校では、次年度の体験活動費の計画や行事計画を年末に立て始めるため、それを踏まえた情報の掲出時期が重要である。

学校外での体験活動の充実について

- ・企業等が行う体験活動を広く提供していくためには、こども・若者の活動場所や居場所となっている地域の施設等とも連携して推進していくことも大切だと考える。
- ・興味関心の発達にも個人差があることや、家庭や学校の実態に応じて一定の年齢層を過ぎてしまう場合もあり得ることなどから、学校単位より可能な限り個人で参加できるようなシステムにした方が良いと考える。
- ・学校以外での連携先の対象としては、以下の施設等が考えられる。
 - ・ 地域学校協働活動
 - ・ 社会教育施設
 - ・ 放課後子供教室・児童クラブ
 - ・ 児童館
 - ・ 勤労青少年センター 等
- ・ポータルサイトの情報を提供する先として、困難な状況にあるこども達を支援する地域の NPO 等を対象として、その NPO が関わるこども達の体験の機会を創出することに、受け入れ先が（相談があった際の企画提案等）サポートするといったことを検討すべきではないか。

学校へのサポートについて

- ・議論の中で、教員の負担の軽減という観点から、長期期間中に家庭で参加できるよう、体験活動の場に関する情報提供を充実させるといった話が出たが、家庭に体験活動の充実を委ねると教育と同様、環境による格差が生まれることを危惧される。学校で実施することの最大のメリットは、（家庭環境に左右されることなく）こども達に体験活動の機会が均等に与えられることにあると思われるため、学校の授業の一環として行うものの、例えば、その引率や体験場所での活動について、地域の見守りボランティアや受け入れ先がサポートするといったことが考えられないものか。

広報について

- ・子供の体験活動の充実を図るためには、場や機会の充実とともに、保護者への啓発や情報提供が大切になってくると思われるが、それに加えて、子供たち自身が体験活動に興味をもち、自ら参加してみたいという気持ちにさせることが大切だと考える。例えば、小学生については様々な体験活動にチャレンジすることの魅力や楽しさを伝えたり、中学生には、部活動だけではなく、オフの日は多様な体験（特に普段出来ないような体験）にチャレンジすることの大切さを伝えたりするなど、土日や長期休暇には自分の興味のある体験活動に参加したいと思わせるような広報をしていくことも大切だと考える。